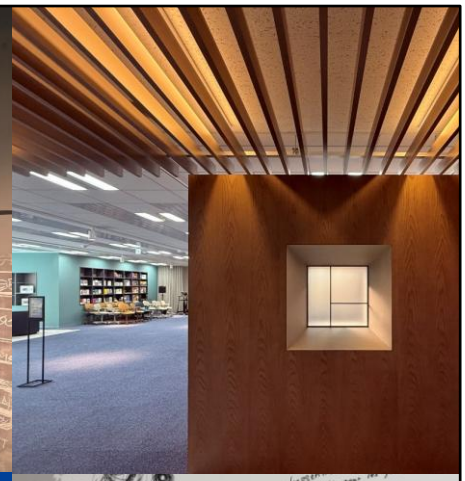
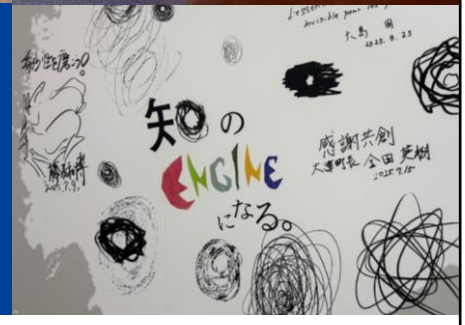




第2期
定時株主総会

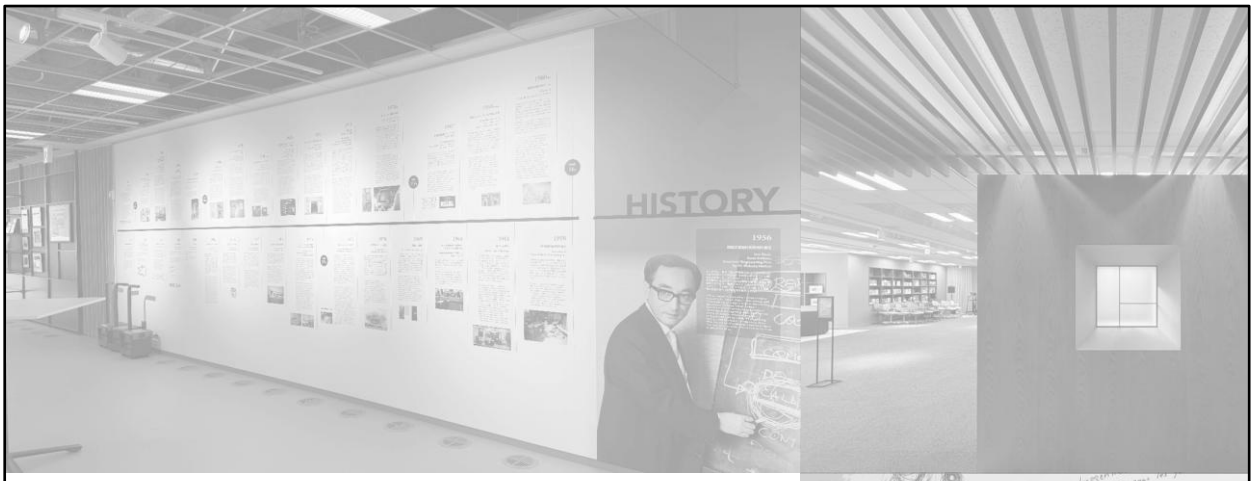
2026年9月10日



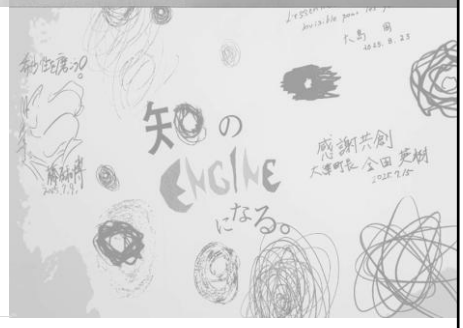
構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

皆様、おはようございます。代表執行役の服部正太でございます。
株主の皆様には、ご多用中のところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
当社定款第15条の定めにより、私が議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申しあげます。



開会宣言



構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

それでは、ただいまより、株式会社構造計画研究所ホールディングス 第2期定時株主総会を開会いたします。
本総会の議事の運営につきましては、議長である私の指示に従っていただきますよう、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申しあげます。
株主様からのご発言につきましては、報告事項および決議事項のご説明がすべて終わりました後に一括してお受けいたしたいと存じます。
なお、本総会は、議事の記録および株主・投資家の皆様への情報提供を目的として、録画しております。録画映像は後日、当社ウェブサイトにて公開する予定です。
公開にあたっては、株主の皆様のプライバシーに十分配慮し、株主の皆様のお顔やお名前が判別できる映像は使用いたしませんので、ご了承いただきますようお願い申し上げます。



出席状況の報告

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

それでは、まず、出席状況につきまして、事務局よりご報告いたします。

ご報告いたします。本総会において議決権を有する株主数は4,512名、その議決権数は108,492個でございます。
本日、只今までにご出席の株主様は、議決権行使書およびインターネットにより議決権をご行使くださいました方を含めまして2,631名、その議決権数は77,556個であります。
従いまして、本総会の議案の決議に必要な定足数を満たしております。
以上、ご報告申しあげました。



監査報告

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

続いて、監査委員会から監査報告をいたします。

監査委員の荒木秀朗でございます。監査委員会の協議決定に従い、私からご報告申し上げます。
当委員会は、常勤の監査委員である私を含めまして、根本監査委員、加藤監査委員の3名で構成しており、根本委員および加藤委員は社外取締役であります。
当委員会では、業務執行から独立した立場で、第２期事業年度における取締役および執行役の職務執行全般につきまして監査を行ってまいりました。
当委員会では、当社の執行役並びに子会社の事業責任者等に直接、報告、説明を求めた他、重要書類や社内システムの閲覧等を通して、業務管理やリスク管理の状況について、監査、確認を行いました。
また、会計については、会計監査人に当委員会への出席を求めて、決算数値の正確性、妥当性、さらには会計監査人の監査の品質や監査の実効性確保の体制等も確認いたしました。
当委員会の監査の方法および結果につきましては、「招集ご通知」60ページに掲載いたしました、監査報告書謄本の通りでございます。
事業報告書およびその附属明細書は法令および定款に従い、会社の状況を正しく示しており、取締役および執行役の職務の執行に関する不正の行為や法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められませんでした。
また、内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であり、内部統制システムに関する取締役および執行役の職務の執行についても、指摘すべき事項はございません。
計算書類及びその附属明細書の監査結果につきましは、会計監査人である清陽監査

法人による監査の方法および結果は相当であると認めます。
なお、連結計算書類の監査に関しましては、「招集ご通知」54ページに記載の清陽監査法人による監査報告書の通り、会社及び企業集団の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に表示しているとの報告を受けております。
監査委員会と致しましては、先ほどの「招集ご通知」60ページに記載の通り、会計監査人の監査の方法と結果は相当であると認めます。
最後に、本総会に提出されております議案および書類につきましても、いずれも法令および定款に適合しており、指摘すべき事項はございません。
以上、ご報告申し上げました。

報告事項

1. 第2期（2025年7月1日から2026年6月30日まで）
   事業報告、連結計算書類並びに連結計算書類に
   係る会計監査人及び監査委員会の監査結果報告の件

2. 第2期（2025年7月1日から2026年6月30日まで）
   計算書類報告の件

続きまして、本日の報告事項であります、第２期事業報告、連結計算書類および計算書類の内容につき、ご報告申しあげます。
詳細につきましては、招集ご通知に記載のとおりでございますが、前方のスクリーンとナレーションを使用いたしまして、その概要をご報告いたしたいと存じます。





事業の状況



構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

株式会社構造計画研究所ホールディングス、第２期の事業の状況についてご説明いたします。



当社グループは、21世紀の日本を代表する『知識集約型企業』をありたい姿としており、社会と共に目指す未来像・方向性として、ソート「Innovating for a Wise Future」を掲げております。
このソートには、「工学知」をベースにした有益な技術を社会に普及させることで、より賢慮にみちた未来社会を創出していきたいという思いが込められております。
この実現に向けて、Professional Design & Engineering Firmとして、工学知に裏付けられた高付加価値なサービスを提供しております。

事業の状況

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

受　注　高	230億2百万円
売　上　高	224億53百万円
営　業　利　益	35億40百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	21億14百万円
受　注　残　高	91億37百万円

当連結会計年度の業績は次の通りとなりました。
受注高は230億2百万円、
売上高は224億53百万円、
営業利益は35億40百万円、
親会社株主に帰属する当期純利益は21億14百万円、
受注残高は91億37百万円となりました。

事業の状況

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

- 前連結会計年度から繰り越された豊富な受注残高に加え期中に獲得した案件を着実に完遂
- エンジニアリングコンサルティングが堅調に推移
- クラウドサービス提供型ビジネスも継続的な成長を維持

売上高・利益は前連結会計年度を上回る結果

- 経営指標である総付加価値（営業利益＋人件費＋フリンジベネフィット）の目標値を中長期的に年間8%へ引き上げ

営業利益と人件費のバランスを勘案し得られた利益を適切に配分

当連結会計年度においては、前連結会計年度から繰り越された豊富な受注残高に加え、期中に獲得した案件を着実に完遂したことにより、エンジニアリングコンサルティングが堅調に推移いたしました。
加えて、プロダクツサービスにおけるクラウドサービス提供型ビジネスも継続的な成長を維持した結果、売上高および各段階利益ともに前連結会計年度を上回る結果となりました。
また、昨今の物価高という社会情勢を踏まえて、当連結会計年度より、当社グループは経営指標である総付加価値の目標値を中長期的に年間８%へ引き上げて業務を遂行してまいりました。
当社の経営方針に従い、営業利益と人件費のバランスを勘案し、得られた利益を適切に配分いたしました。

事業の状況

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

■ 営業外費用において持分法による投資損失を計上

親会社株主に帰属する当期純利益においても前連結会計年度を上回る結果

■ 受注残高：91億37百万円

前連結会計年度末（85億87百万円）を上回る受注残高を確保

営業外費用において持分法による投資損失を計上いたしましたが、親会社株主に帰属する当期純利益においても、前連結会計年度を上回る結果となりました。
受注残高に関しては91億37百万円と、前連結会計年度末を上回る受注残高を確保しております。

セグメント別の状況

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

エンジニアリングコンサルティング

プロダクツサービス

セグメント別の状況についてご説明いたします。

セグメント別の状況

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

エンジニアリングコンサルティング

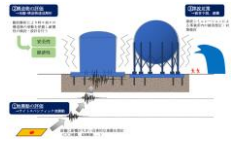
構造設計・構造解析コンサルティング

- 特殊建築物の構造解析
- 風車基礎・タワーの構造設計



環境評価・防災コンサルティング

- 地震動評価
- 災害リスク評価
- 風況解析



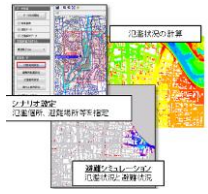
住宅・建設分野システム開発

- CAD・BIM・構造計算を含むシステム開発



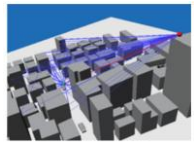
意思決定支援コンサルティング

- 社会シミュレーション
- 最適化



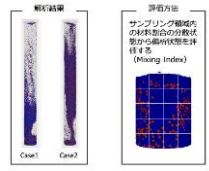
情報通信技術コンサルティング

- 通信ネットワーク
- 電波伝搬シミュレーション
- 電磁界シミュレーション



製造業向けデータ活用コンサルティング

- CAEによる設計の効率化、生産技術の最適化



エンジニアリングコンサルティングのセグメントでは、構造設計・構造解析コンサルティング、環境評価・防災コンサルティング、住宅・建設分野システム開発などの事業を展開しております。

セグメント別の状況

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

エンジニアリングコンサルティング

受　注　高	136億97百万円
売　上　高	133億3百万円
売上総利益	77億23百万円
受注残高	67億円

エンジニアリングコンサルティングにおける業績は
受注高は136億97百万円、
売上高は133億3百万円、
売上総利益は77億23百万円、
受注残高は67億円となりました。

セグメント別の状況

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

エンジニアリングコンサルティング

■ 前連結会計年度末から繰り越された案件及び当連結会計年度に獲得した受注案件を着実に遂行

増収増益

売上高・利益ともに拡大傾向を維持

■ 翌連結会計年度に向けた受注残高：67億円

前連結会計年度（63億6百万円）を上回る受注残高を確保

当連結会計年度においては、前連結会計年度末から繰り越された案件及び当連結会計年度に獲得した受注案件を着実に遂行したことで、増収増益となり、売上高、利益ともに拡大傾向を維持しております。
また、翌連結会計年度に向けて受注残高は、前連結会計年度を上回る67億円を確保しております。

セグメント別の状況

構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

プロダクツサービス

パッケージ販売型ビジネス

製造業向け設計・開発支援

- CAE(熱流体解析、粒子法、粉体解析)
- 営業支援ソリューション等

SOLIDWORKS / Particleworks / FrontFlow/FD / KKE/OrderConfig / ADAP / iGRAF / eDNS / SIMSCALE

通信・電波環境解析・設計支援

- 電波伝搬解析
- ネットワーク解析
- 5G,6G検証プラットフォーム

RapLab / OAIBOX / KCAMP / Wireless InSite

構造物設計支援

- 建築構造物解析
- 地盤解析等

RESP / STAN

意思決定支援

- 社会シミュレーション
- リスク分析

artisoc / Crystal Ball

クラウドサービス提供型ビジネス

- クラウドベースメール配信サービス — twilio SendGrid
- クラウド型入退室管理システム — RemoteLOCK
- 現場3Dデータプラットフォーム — NavVis

プロダクツサービスのセグメントでは、パッケージ販売型ビジネスと、クラウドサービス提供型ビジネスを展開しております。

セグメント別の状況

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

プロダクツサービス

受　　注　　高	87億49百万円
売　　上　　高	86億19百万円
売 上 総 利 益	34億39百万円
受　注　残　高	23億58百万円

プロダクツサービスにおける業績は
受注高は87億49百万円、
売上高は86億19百万円、
売上総利益は34億39百万円、
受注残高は23億58百万円となりました。

セグメント別の状況

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

プロダクツサービス

- クラウドサービス提供型ビジネスが受注・売上成長をけん引
- 新しいクラウドサービスの立ち上げ・パッケージ販売型ビジネスにおける新製品への先行投資費用等の影響

前連結会計年度と同水準で推移

クラウドサービス全体のARR合計は42億18百万円、前連結会計年度比で20.4％増加

当連結会計年度においては、引き続きクラウドサービス提供型ビジネスが受注、売上成長をけん引しました。
特に、入退室管理システムRemoteLOCK及び現場3D化を加速するNavVisは高い成長率で進捗し、利益率も継続的に改善しております。
一方で、新しいクラウドサービスの立ち上げやパッケージ販売型ビジネスにおける新製品への先行投資費用などの影響もあり、プロダクツサービス全体の利益率は前連結会計年度と同水準で推移しました。
なお、クラウドサービス全体のARR合計は、42億18百万円となり、前連結会計年度比で20.4%増加しております。
これに受注残高23億58百万円を加えると、実質的な受注残高は65億76百万円となりました。

連結貸借対照表

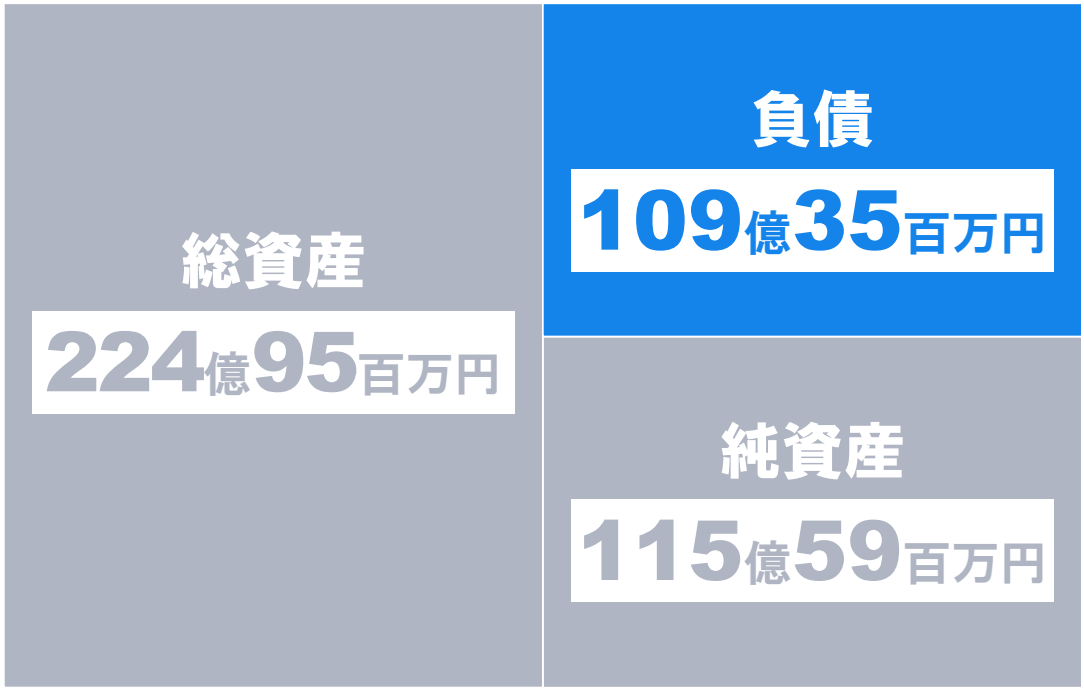
構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.



続いて、2026年6月30日現在の財政状態についてご説明いたします。
総資産は、224億95百万円、

連結貸借対照表

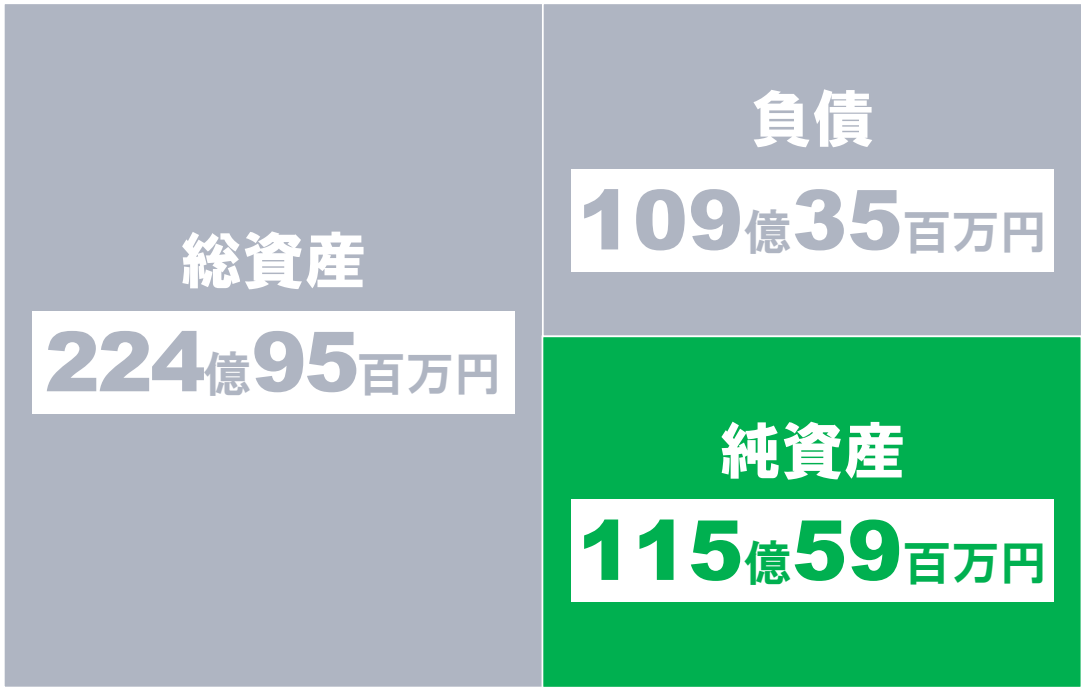
構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.



負債は、109億35百万円、

連結貸借対照表

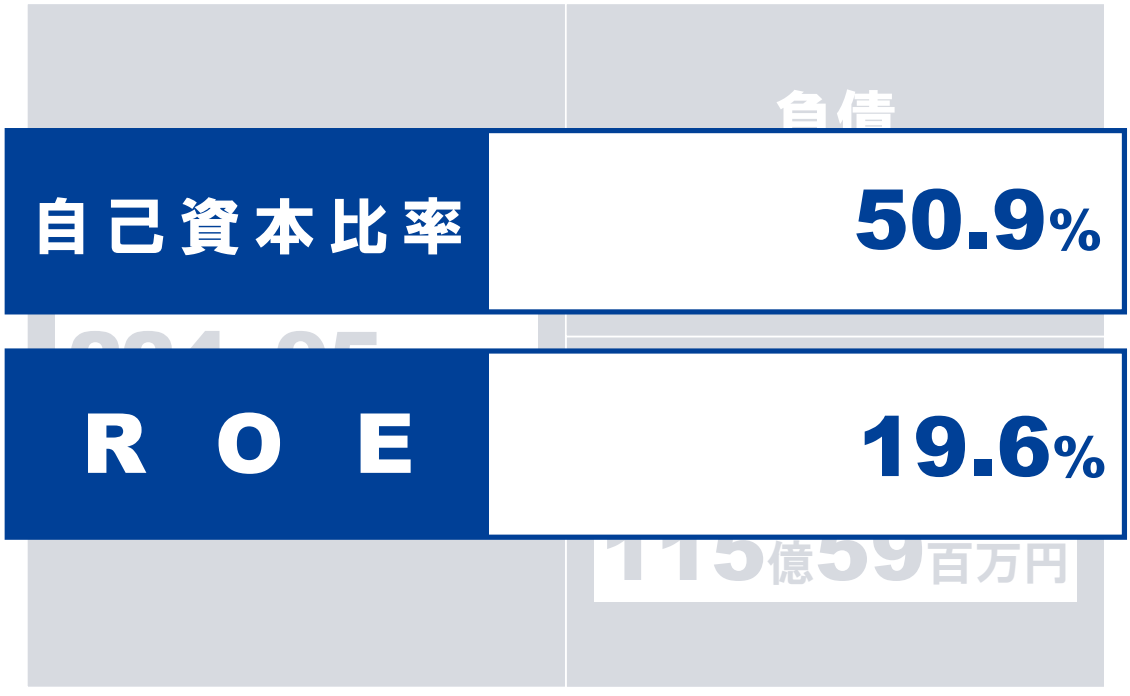
構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.



純資産は、115億59百万円となりました。

連結貸借対照表

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

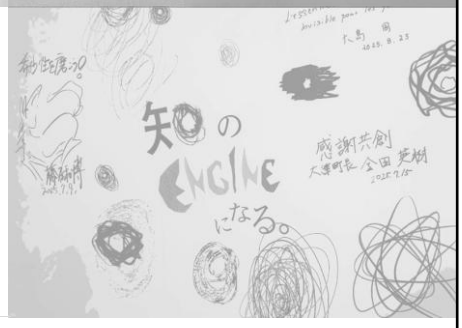


この結果、自己資本比率は50.9%、ROEは19.6%となりました。





対処すべき課題



構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

続きまして、対処すべき課題について議長よりご説明いたします。

対処すべき課題

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

1 品質の維持及び向上

2 多様性のある優秀な人才の確保・育成・定着

3 既存ビジネスのさらなる成長

4 新規事業の開発・開拓

5 パートナー企業への投資の位置づけ

対処すべき課題として次の５点を挙げております。
品質の維持及び向上、多様性のある優秀な人才の確保・育成・定着、既存ビジネスのさらなる成長、新規事業の開発・開拓、およびパートナー企業への投資の位置づけでございます。

品質の維持及び向上

構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

- 確かな品質と価値ある成果を提供
- 品質管理体制のさらなる改善と着実な運用
- 品質に対するこだわりと責任感を醸成

顧客の信頼と期待を継続的に獲得

品質の維持及び向上に関しましては、過去に発生した構造やシステム分野での品質不良によるお客様への迷惑を反省し、常に確かな品質と価値ある成果を提供することを目指して、品質管理体制の更なる改善と着実な運用を行ない、所員の品質に対するこだわりと責任感を醸成していきたいと考えております。
お客様の信頼と期待を獲得し続けることが品質維持及び向上の一番の目的でございます。

人才の確保・育成・定着

構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

- 当社グループのありたい姿・企業理念に共感する人才の採用に注力
- 新卒採用：ジェンダー・国籍の区別なくアピール
- キャリア採用：当社グループで働くことの愉しさを訴求
- 事業内容の多様化に応じた人才の獲得
- 年功序列でない、適材適所による人才の育成
- 多様な働き方の選択肢の提供による人才の定着

当社グループの価値創造の源泉である人才に自己実現の場と成長機会を提供

次に、人才の確保・育成・定着でございます。
当社グループのありたい姿・企業理念に共感する人才の採用に注力をしております。
新卒採用においては、ジェンダー・国籍の区別なくアピールすることで多様な人才を確保しております。
キャリア採用においては、当社グループで働くことの愉しさを訴求し、単に給与の厚遇だけでない価値が理解されるような努力をしております。
今後、事業内容も多様化する中で、技術が分かる人才だけでなく、営業・マーケティングや管理・企画など、多様な人才に参画していただきたいと考えております。
また、当社では独自の目標管理制度（MBO）を確立し、年功序列でない、適材適所の人才育成が図られております。
さらに、人才の定着を図るために、当社グループの株式会社KKEスマイルサポートや熊本に拠点を置く株式会社 PARA-SOLを通じて、人才が自ら働き方を自由に設計できるように、多様な働き方の選択肢を提供しております。
これらにより、当社グループの価値創造の源泉である人才に対して自己実現の場と成長機会を提供してまいります。

既存ECビジネスの成長

構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

エンジニアリングコンサルティング

- 高い利益性を維持
- 真に顧客ニーズに応える新しい解決策

新しいサービスの立ち上げ
既存ビジネスの付加価値向上

既存ビジネスのエンジニアリングコンサルティングに関して、新規ビジネスを支えていくためにも、エンジニアリングコンサルティングビジネスにおいて着実な収益性を出していくことが重要だと考えております。
エンジニアリングコンサルティングビジネスにおいては、対面する顧客ニーズの変化や技術変動のなかで、今後も高い利益性を維持しつつ、真にお客様にとっての解決策となる成果を生み出し続ける必要があると考えております。
そのために、事業部門間の連携を強化し、新しい価値あるサービスの立ち上げ、既存ビジネスの付加価値向上にスピード感を持って取り組んでまいります。

既存PSビジネスの成長

構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

プロダクツサービス（パッケージ販売型）

- 個々のプロダクトの収益性や成長性も見極め
- 顧客ニーズに応える新たな価値提供を常に探索

適切な戦略策定と投資を実行

次に、既存ビジネスのパッケージ販売型ビジネスについてでございます。
パッケージ販売型のプロダクツサービスビジネスにおいては、個々のプロダクトの収益性や成長性も見極めながら、本当にお客様のニーズに応える新たな価値提供を常に探索し、適切な戦略策定と投資を実行してまいります。

既存PSビジネスの成長

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

プロダクツサービス（クラウドサービス提供型）

- **SendGrid（Twilio Inc.）**
- **NavVis GmbH**
- **RemoteLock, Inc.**

ここ数年の当社グループの成長を大きくけん引

クラウドサービス提供型のプロダクツサービスにおいては、海外の有用サービスの国内展開に継続的に取り組んでまいりました。
近年はSendGridのTwilio社、NavVis社、RemoteLock社といった海外スタートアップ企業のサービスの国内展開を進め、これらのサービスの成長がここ数年の当社グループの成長を大きくけん引しております。
今後も各社との協業関係を強化し、さらなる成長に取り組んでまいります。

新規事業の開発・開拓

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

■ 新規事業の立ち上げ

- OAIBOX
- SimScale
- MystructureNote
- iGRAF

**次世代における当社グループの中核となる
ビジネスへの発展を目指す**

続いて、新規事業の開発・開拓でございます。
ポルトガルAllbesmart社の製品であるOAIBOX、ドイツSimScale社の製品であるSimScale、自社開発ソフトウェアであるMystructureNoteおよびiGRAFについては、この後の株主懇談会でも紹介させていただきますので、お時間が許す株主様におかれましてはぜひご参加いただければと思います。
これらの新規事業が次世代における当社グループの中核となるビジネスへ発展するよう目指していきたいと考えております。

パートナー企業への投資

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

RemoteLock, Inc.

- 日本国内事業の基盤維持・強化
- 日本発プロダクトの米国展開による日米双方向のシナジー

事業価値を相互に拡張

NavVis GmbH

- 株式転換によるシリーズDへの投資

AI技術を活用した空間データの利活用の拡大
日本企業のグローバル展開強化

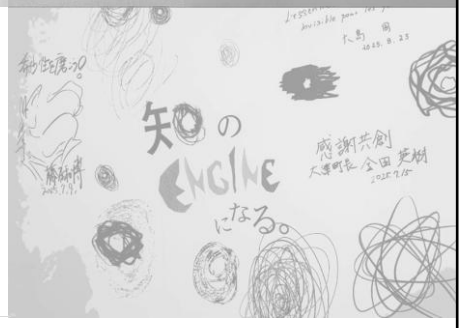
パートナー企業への投資についてでございます。
米国RemoteLock社に対して支援を行い、日本国内事業の基盤維持・強化を行っております。
また、日本発プロダクトの米国展開により、日米双方向のシナジーが生まれることを期待しております。
これらにより、事業価値が相互に拡張することを目指しております。
ドイツ、ミュンヘンに本拠を置くNavVis社に対しては、株式転換によるシリーズDへの投資により、AI技術を活用した３次元空間データの利活用の拡大と日本企業のグローバル展開支援を目指しております。

以上、ご説明申し上げた課題を克服しながら、今後も運営を進めてまいりたいと考えております。





利益還元



構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

次に、株主の皆様への利益還元についてご報告いたします。
当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題として認識しております。
そこで、経営基盤の強化及び将来の事業展開に備えて内部留保を勘案しつつ、継続的かつ安定的にサステナブルに配当を行うとともに、連結DOEを10%程度とすることを基本方針としております。

利益還元

構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

普　通　配　当	1株当たり 35円
＋	
特　別　配　当	1株当たり 12円
▼	
当期末配当合計	1株当たり 47円

この基本方針に基づき、当期末配当は、１株当たり普通配当35円に、特別配当12円を加えた合計47円といたしました。

利益還元

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

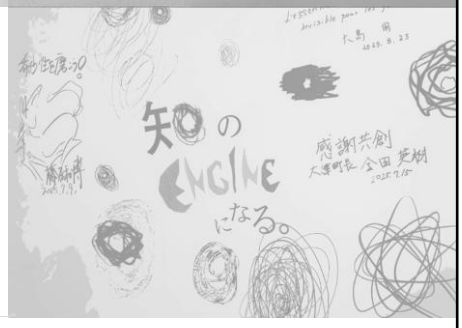
第１四半期末配当金	1株当たり15円
第２四半期末配当金	1株当たり20円
第３四半期末配当金	1株当たり20円
当期末配当金	1株当たり47円
年間配当金	1株当たり102円 （予想比 12円増配）

その結果、年間配当金としては、第１四半期末から第３四半期末までの配当金合計55円と合わせて102円となり、事前に公表いたしました配当予想90円から12円増配となりました。

報告事項は以上となります。







議案上程

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

続きまして、議案を上程させて頂きますとともに、その内容につきまして、あらかじめご説明申しあげます。
あわせて、お手許の招集ご通知５ページ以下の「株主総会参考書類」をご参照ください。

議案上程

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

第1号議案

定款一部変更の件

招集ご通知 5 頁

まず、第１号議案、『定款一部変更の件』ですが、お手許の書類５ページに記載のとおり、当社の企業理念を定款に入れることで、株主の皆様をはじめ全てのステークホルダーに対して、当社の存在意義と普遍的な経営方針をコミットするものであります。

議案上程

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

第2号議案

取締役9名選任の件

招集ご通知 6～18 頁

次に、第２号議案、『取締役９名選任の件』ですが、お手許の書類６ページに記載のとおり、現在の取締役全員は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、社外取締役６名を含む取締役９名の選任をお願いいたしたいと存じます。
取締役候補者の詳細は、招集ご通知６ページから18ページに記載のとおりでございます。

以上の通りご提案申しあげます。



議案審議

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

それでは、この後の進行方法についてお諮りしたいと存じます。
まず、すでに提出しております報告事項および招集ご通知記載の決議事項について、株主の皆様からのご意見、動議を含めた審議に関する一切のご質問、ご発言をお受けいたします。
その終了後は決議事項につき採決のみさせて頂きたいと存じますが、この方法についてご賛同いただける株主様は拍手をお願いいたします。

（拍手）

ありがとうございます。
過半数のご賛同を得ましたので、この方法で進めさせて頂きます。

議案審議

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

ご指名後

①出席票番号 ②お名前 ③ご質問内容

の順にご発言ください。
ご質問は一回につき一問でお願いします。

本総会は記録と公開のため録画しておりますが
プライバシー保護のため
株主様のお顔や名前が判別できる映像は使用いたしません。

それでは、これより株主の皆様からのご発言をお受けいたします。
なお、ご発言にあたっては、議長である私の指名を受けて頂いたのち、係員がマイクをお持ちしますので、ご自分の出席票番号とお名前をおっしゃって頂いたうえで、お一人様一回の質問につき一問、簡潔に要点のみご発言ください。
なお、お名前を伏せていただいても結構です。
それでは、ご発言をお受けいたします。
ご発言を希望される株主様は、挙手をお願いいたします。

質問①

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

■ 人権の取り組みの一環としての拉致問題の啓発活動について

【回答要旨】（回答者：取締役 代表執行役　服部 正太）
拉致問題に関しては個人としても非常に憤りを感じており、こうした人権が蹂躙（じゅうりん）されることに関して、一日も早い解決がされるようにできればと思っております。
今後とも株主様のご意見を尊重しながら活動の中に入れていきたいと考えております。

質問②

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

■ 熊本地震に対する復旧支援の取り組みおよび成果について

【回答要旨】（回答者：執行役　郭 献群）
当社は創業以来、熊本城をはじめとする建築物に関わっており、約10年前の熊本地震後には耐震補強にも携わってまいりました。
今回の地震発生後、関係者と協力して状況を確認した結果、これまでの補強が効果を発揮し、大きな被害が生じていないことを確認しております。
今回の地震についても、業界団体や顧客等から各種相談が寄せられており、当社として、これまで培ってきた経験と専門的知見を生かし、エンジニアとして引き続き社会に貢献していきたいと存じます。

質問③

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

■経営指標としての「総付加価値」を定款に加えることについて

【回答要旨】（回答者：取締役 代表執行役　服部 正太）
総付加価値は、所員のモチベーション向上と株主様への適切な利益還元を両立させるための経営指標として位置付けております。
所員への還元に偏りすぎることなく、労働分配率を72～74%程度に抑えながら、営業利益を着実に確保していく方針でございます。
これまでの日本企業では、人件費を抑制して株主利益を重視する傾向も見られましたが、当社としては所員と株主様の双方への還元をバランスよく実現する経営を目指していきたいと考えております。

質問④

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

■取締役候補者の年齢が集中していることおよび社外取締役の報酬について

【回答要旨】（回答者：取締役 執行役　木村香代子）
当社では招集通知においても取締役のスキルマトリクスを公開しております。
取締役会全体として多様なスキルが発揮されるように取締役を選定しており、こうした選定の結果として現在の年齢構成となっております。
また、社外取締役の報酬については、報酬委員会で十分に議論した上で決定しております。
当社の社外取締役には、通常の取締役会への出席に加え、現場のレビュー会議や各種イベントにも参加いただくなど、当社に深くコミットしていただいており、こうした活動も踏まえ、適切な報酬水準を設定していると考えております。

質問⑤

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

■ 当社の知名度向上および社会に対する発信について

【回答要旨】（回答者：取締役 代表執行役　服部 正太）
当社の取り組みをより積極的にIR等で発信し、社会をリードしてほしいとのご意見については、その趣旨を真摯に受け止めております。
一方で、マスメディア等で一方的な発信を行うことよりも、まずは現場でお客様の声に真摯に向き合い、直接抱える課題に確実に対応していくことが最優先であると考えております。

質問⑥

構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

■社名「構造計画研究所ホールディングス」の名称が長いことについて

【回答要旨】（回答者：取締役 代表執行役　服部 正太）
社名が長いとのご意見について、海外では「KKE」、国内でも「構研」「構造研」などの略称で呼ばれております。
社名自体を変更するよりも、こうした略称を含めて広く認知されることが重要と考えておりますが、いただいたご意見については、今後も株主様との意見交換を通じて検討していきたいと考えております。



議案採決

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

報告事項および決議事項に関し、十分審議をつくしましたので、これをもって全ての審議を終了し、議案の採決に移らせて頂きたいと存じますが、ご賛同いただける株主様は拍手をお願いいたします。

（拍手）

ありがとうございます。
過半数のご賛同を得ましたので、議案の採決に移らせて頂きます。

議案採決

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

第1号議案

定款一部変更の件

それでは、第１号議案、定款一部変更の件の採決をいたします。
原案にご賛成いただける株主様は拍手をお願いいたします。

（拍手）

ありがとうございました。
３分の２以上のご賛成を得ましたので、本議案は、原案のとおり承認可決されました。

議案採決

構造計画研究所 ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

第2号議案

取締役9名選任の件

続きまして、第２号議案、取締役９名選任の件の採決をいたします。
原案にご賛成いただける株主様は拍手をお願いいたします。

（拍手）

ありがとうございました。
過半数のご賛成を得ましたので、服部正太、木村香代子、荒木秀朗、新宅祐太郎、
加藤嘉一、根本博史、今泉泰彦、北原一夫、勝又幹英
以上の９名が取締役に選任されました。



閉会宣言

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

これをもちまして、本総会の議事は、すべて終了いたしましたので、本総会を閉会いたします。
株主の皆様には、議事進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。



ご挨拶

構造計画研究所ホールディングス
KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.

Innovating for a ***Wise Future***

ここで少々お時間を頂戴して、本総会に出席の取締役および執行役からそれぞれ一言ご挨拶をさせていただきます。

（取締役、執行役による挨拶）

ご挨拶は以上でございます。
本日は、ご多用中のところ、当社株主総会にご出席くださいまして、誠にありがとうございました。

構造計画研究所ホールディングス

KOZO KEIKAKU ENGINEERING HOLDINGS Inc.